

エヴァンゲリウム・カントライ

Evangeliums-Kantorei

〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭 5529-8 シャルマンコーポ 404 小山方

Tel. 070-2834-4304

郵便振替 00100-3-21060

「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」

(ヨハネの福音書 1章 14節 a)

山口 康友

感染症対策下の礼拝では、感染の防止のため、様々な制約が生まれています。消毒液の準備、ソーシャルディスタンス（礼拝堂の席数を減らす）、礼拝中の換気、マスク必着、オンライン配信、礼拝全体の時間の短縮、聖餐式の工夫等々。礼拝賛美にも工夫が必要となりました。飛沫防止のためマスクしたまま、大きな声を我慢し、そして歌詞の選択（例えば5番まである歌詞を1、3、4番のみとする）です。最初それは礼拝賛美の縮小(?)のようで、ああ、大きな声で歌いささげたい、とストレス感半端なかったものです。制約で礼拝自体が損なわれるような戸惑いを覚えたのです。でも愛し合い、仕え合いましたと我慢しました。

しかし、わかってきたのはその「縮小」は礼拝や賛美の本質の縮小とはならないということです。声を抑えるからこそ、歌詞の意味に深く入り込み、語り聞かせるように歌います。また讃美歌の歌詞番号を注意深く選ぶことで、説教後賛美の主題が絞り込まれ、応答として濃くなることも体験しました。このような時にも主は色々と教えてくださいます。私が仕える教会は10月から待降節モードに入りました。悪魔のハロウィンを蹴散らし、主のご降誕を待ち望む期間を長く取りました。待降節の讃美歌は、普段の開会賛美にも十分に対応できることに気が

つきました。季節性にこだわると、良いものを見過ごします。私たちは今教会が新しくされるための大切なヒントを与えられ続けているのかもしれませんが。

10月から待降節モードに入ったのは理由があります。今私たちはいつも以上にクリスマスに飢え渴くように招かれているのではないのでしょうか。イエスさまは、神でありながら私たちと同じからだをまとわれて、乙女マリアから生まれてくださり、私たちの間に住む者となってくださいました。この時代の人々はイエスさまの声を直に聞き、質問し、教えに驚愕し、その言動にハラハラし、交わりをし、食事をともにしました。今、礼拝や交わりに制約が設けられる中、この「受肉」という真理を恋慕います。教会の交わりが日常にありながら実は特別な恵みであり、いかに尊い交わりであったかを気付かされるのです。イエスさまは、罪人が作った欠陥だらけの社会の中に宿を設けられ、墮落した者を親しく集めてくださいました。罪の文化で育った言語で福音を語られ、十字架と復活において神の愛と全能の力を残らず示してくださいました。私たちは今日もこの方を、ことばと行いにおいて賛美し、お仕えする者とさせていただきたいと願うのです。

(白根福音教会牧師、カントライ理事)

『災いの時と賛美』

齊藤 律子

カントライの練習も賛美奉仕の中止もすでに今月で九ヶ月となり、リモートでの個人レッスンで繋いでいるものの、そろそろかなりモチベーションを維持するのが難しくなってきたように思います。そこでカントライは11月13日の金曜日に、リモート会議で集まろう！と計画しています。その次第により、12月には同じくリモートで『みことばのうた～クリスマスミニコンサート』を予定しています。それによって、この半年のそれぞれの賛美の実りが、クリスマスの喜びと感謝を持って捧げられるのではないかと祈っています。

前回の理事会で「疫病を含む災禍時における賛美がどうであったか」をテーマに原稿を書いてはどうか、という提案をいただき、何も最たる資料がない中ですが、教会音楽の歴史の中で、疫病流行下における賛美について、3人の運営委員（齊藤、石川、須田）で載せることといたしました。ヨーロッパにおけるペストの流行の歴史の記述の古くは6世紀、13世紀が見られますが、今回は17世紀のイギリス、17世紀ドイツ、19～20世紀ドイツの3つに焦点を絞り、『災いの時と賛美』をテーマに書かせていただくことにいたしました。

『災いの時と賛美①』～17世紀のイギリス～

イギリスは、1664年秋から1665年年末、ロンドンを中心にペストが大流行しました。その頃の教会での会衆賛美はどのようなものであったのでしょうか。イギリスの宗教改革はドイツと状況が異なり、英国王ヘンリー8世の離婚問題から端を発して、ローマ教会の宗教的支配から脱却し、1534年に英国王を首長とした英国国教会を立ち上げたので、礼拝は自国語になったものの、様式はローマカトリックのままでした。ルターよりカルヴァンの影響を強く受けたイギリスの宗教改革後の賛美の中心は、その後200年近く、詩篇歌でした。私達に馴染み深いイギリスの創作賛美歌の黄金時代（ウェスレー兄弟、ウォッツ等）の始まりは18世紀からということになります。この、ロンドンから端を発したペストのパンデミックの間も、教会賛美の中心は詩篇歌であったと思われます。国王の命を受け、沢山の英国詩篇歌が作られました。讚美歌539番「あめつちこぞりて」、4番「よろずのくにびと」、10番「わがたまたたえよ」、II-41番「主はわが牧者」等は、今でも用いられています。17世紀に入ってから、少しずつ創作賛美歌も作られ始めます。160番「よろこびの調べ」は初期のものの一つです。

このペスト流行の時代を知るために参考になる書物を探していたところ、ダニエル・デフォーの『ペスト』（中山宥）に出会いました。『ロビンソン・クルーソー』の作者です。小説なので資料としての価値はいかかなものかとも思いましたが、読んでみると実に客観

的に社会の様子が書かれており、ロンドンの地域毎、週毎の死亡者数も克明に載っているのです。後書きによると、デフォーの叔父にあたる人物が詳細な記録を残し、それをもとに書き上げたということです。当時の疫病流行下の様子は、驚くほど現在と似ており、人の密集を避けるため、演劇、コンサート、催し物は禁止され、ペストを発症した家は外から施錠され、富裕層はロンドンから地方の別荘に移動し、街からは人影が消えた、とあります。

私が興味を覚えたことは、デフォーがとても聖書的に物事を観ている点です。この時代のイギリスは、より強いカルヴァン主義の影響下に勢いを増してきた非国教会諸派と英国国教会の激しい対立の時代でした。そのことをデフォーがとても憂慮しているのです。非国教会派は国教会から弾圧を受け、ピューリタン主義の台頭へと発展していきます。教会は、一週間の死亡者が1万人にもなる中でも礼拝は行われていたようです。人々は不安もあり、祈りに大勢の人が詰めかけていた、とあります。賛美歌は禁止され、とは書かれていないので歌われていたであろうと思われませんが、不明です。苦しみと不安にある時、みことばの慰めがどれほど大きいかを思うと、詩篇歌は祈りとなったのではないかと想像します。デフォーがこの災害時にあって、良かったこととして挙げたのが、国教会の教壇に非国教会派の牧師が立ったことを挙げています。国教会牧師の多くが地方へ脱出してしまい、日曜日の説教者が足りなくなり、仕方なく、という事ようです。デフォーは「これを機会に対立が無くなれば良い、と願ったが、疫病が静まったあとは、又元どおりになり、人々は他人を思いやる気持ちも失せ、食欲な生活に戻ってしまった」と、出エジプト記を引用して書いています。

ペストが下火に転じたのは1665年の10月を過ぎた頃からでした。おそらくクリスマスにはいつものように、礼拝で美しい賛美が響いたことでしょう。非聖書的なものを拒むピューリタンは、中世以来のカトリック伝統に根ざすものを廃止していきますが、英国のカロルもその一つでした。しかしカロルは、口伝により歌い継がれて、その一部は今でも愛されています。Ⅱ-152番「古いものはみな」、Ⅱ-216番「みつかいうたいて」、103番「牧人ひつじを」、Ⅱ-245番「神のみ子は今宵しも」等です。

私たちは今、まだ新型コロナ感染拡大の最中にいます。教会員全員で集まることのできないクリスマスを迎える教会も多いかと思いますが、共に、御子をお与えくださった主に感謝と喜びの賛美をお捧げしたいと思います。

(カントライ指揮者、九十九里教会会員)



久しぶりに集まりました！
11/13 Zoomにて



事務局から

☆ 活動予定

- 2021年6月5日（土） 前橋キリスト教会演奏会
- 12月4日（土） 九十九里教会クリスマスコンサート

* 今後の状況によって変更の可能性がありますので、ご確認をお願いいたします。

☆ 献金（2020年8月－2020年11月） （ ）内の数字は件数です。
尊い献げものをありがとうございました。感謝をもってご報告いたします。
(敬称略)

< 賛助会 >

- (教会) 前橋キリスト教会 (4)、宇都宮聖書バプテスト教会、白根福音教会
東京聖書教会 (4)、浦和福音自由教会 (4)、北栄キリスト教会 (3)
長津田キリスト教会、川越聖書教会(2)、拝島バプテスト教会
札幌希望の丘教会
- (個人) 飯島勅・千雍子 (3)、高張美恵子 (4)、林田志津子、花澤久美子
渋谷和之、石川澄

< 献金 >

- (教会) 四街道教会聖歌隊、湘南ライフタウンキリスト教会 (4)
- (個人) 団員

編集後記

主イエス・キリストのご降誕をお祝い申し上げます。教会はいつもと違うクリスマスを迎えていることと思います。心のうちに主イエス様をお迎えする準備が整えられ、主への賛美に満たされ、御恵みがありますようにお祈り申し上げます。この一年、大きな変化の中でしたが、お支えとお祈りによって、守られましたことを感謝いたします。今後の予定が立てられない状況ですが、主のご計画を信じて、今私たちにできることをさせていただきたいと願っています。（事務局）